

(様式5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立氷見高等学校・教諭・細川 茂樹
- 2 研修期間 令和4年9月29日(木)～令和4年10月1日(土) 3日間
- 3 調査研究課題 小中高のキャリア教育・インターンシップ最前線の視察
- 4 研修機関等 ①おしごと体験広場キッズハローワーク(青森県弘前市)
②津軽藩ねぷた村(青森県弘前市)
③一般財団法人関西経済同友会(大阪府大阪市)
④関西キャリア教育支援協議会(大阪府大阪市)
⑤大阪府教育庁、大阪市教育委員会(大阪府大阪市)
⑥大阪科学技術館(大阪府大阪市)
⑦あべのハルカス(大阪府大阪市)

5 研修の概要

(1)はじめに

現在、平均寿命・健康寿命がともに世界でトップクラスの長寿社会を迎え、労働や雇用が大きく変化すると予測されている。また、AIやロボット、IoT等の技術革新により、産業・就業構造の劇的な転換期となる可能性が高く、これまで以上に職業教育の必要性が求められている。

教育現場では、小学校における職業調べや職場見学、中学校における「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」、高等学校におけるインターンシップなど、発達の段階に応じた体系的なキャリア教育が実践されている。今後、児童生徒が職場理解や職業観・勤労観の育成をより一層充実させるために、各視察先における先進的な取り組みを学びたいと考えた。

(2)研修機関等

①おしごと体験広場キッズハローワーク

特例認定特定非営利活動法人 SEEDS NETWORKの「おしごと体験広場キッズハローワーク」の活動内容の説明を受けた。この活動はキッズデザイン賞優秀賞を受賞されており、本当に地方には何もないのか?との問いに対して、子どもを育むことは町を、地域を、未来を拓くことになるとの理念で、企業と地域が連携して職場体験を通じた社会体験の場を提供しておられる。この活動によって、子どもは地域の人や物を知るきっかけとなり、地域の職業人の方々は仕事の魅力を再認識し、価値の再発見につながる好循環をもたらしていた。また、何かの役に立つこと、人を喜ばせること、人とつながること、自分の力で生きていくこと、自分を磨くことの5つのテーマをもって活動にあたっておられ、目の前の人を笑顔にすることを最も大切にして運営にあたっているとのことであった。教育現場にも共通することが多くあり、子どもの知的好奇心が満たされる環境の大切さ、子どもの知りたい気持ちを大切にしておき、気を遣いすぎないように気を遣うとの考え方が印象的であった。

本県高岡市でも、10月2日(日)に高岡テクノドームにて小学生向けの職業体験イベント「わくわくIMPULSEランド」が開催された。小学生に身近な仕事に触れる機会であるとともに、地域産業の担い手不足解消につながる企画であったことから、キッズハローワークを参考にして多くの市町村で開催できればと思う。また、中高校生もイベントの協力者として参加することで、身近な職業や地域産業を考えるきっかけとなり、職業観・勤労観の育成につながるのではないかと感じた。



②津軽藩ねぶた村

弘前ねぶたの館には、高さ10mの大型ねぶたと内部の骨組みなど実物大の大型ねぶたが展示してあった。笛と太鼓のお囃子の実演は迫力があり、祭り当日の臨場感を味わうことができた。実演後は弘前市の「ねぶた」、青森市の「ねぶた」の違い、ねぶた祭りの「ヤーヤドー」という掛け声の意味などの説明を受け、地域社会と各年代を育んできた歴史を学ぶことができた。また、藩政時代の米蔵を利用した民芸品の製作工房もあり、「つくる、学ぶ、伝える」の3つの観点が一同に揃う施設としての魅力を知ることができた。授業の導入部分や展開でも参考になる部分があり、つくるだけ、学ぶだけ、伝えるだけではなく、全ての要素を織り交ぜた授業の構成によって児童生徒の興味・関心を高めることができるのだと改めて感じることができた。



③一般財団法人関西経済同友会

関西経済同友会は昭和21年に誕生し、戦後の荒廃の中で国のために若手経営者が集まってできた団体である。事業活動の説明では、20を超える委員会を設置し、安全保障から子育てまでの幅広い分野で取り組みをしておられるとのことであった。その中でも、2001年度は大阪活性化委員会が、「梅田北ヤード地区の一体的土地利用」を提言され、開発をリードして活動した当時の様子を伺った。2021年度は教育問題委員会が「学校任せから社会全体で共創する初等教育への転換」との提言をされ、教育行政、企業、教育現場への3つの提言内容の全体説明を受けた。また、提言を実行するために「こども未来委員会」を設置されるなど提言に対する本気度が伝わってきた。各委員会には多くの副委員長を設け、他人事ではなく自分事にしてもらうための組織づくりの工夫点も参考になった。さらに、子どもは宝であるとの思いから、我が国を支える基盤となるのは人づくりと考え、日々現場で奮闘している現場教員に対して「全てを学校で抱え込まなくてよい」というエールを贈りたいとの言葉を頂き、胸が熱くなった。活動を通じて、メタ認知を伴う自己肯定感・自己効力感の醸成と、学業だけではない多様な経験を通じた能力開発が大切であると感じておられるようであった。今回の研修テーマである職業教育、キャリア教育によって、これらの力を養うことができるのではないかと感じた。



④関西キャリア教育支援協議会

⑤大阪府教育庁、大阪市教育委員会

3つの研修先においても、職業観・勤労観の育成のための取り組みを伺った。行政・企業・学校の三位一体の改革、多様性を受け入れる受容力、日本人の減点法による考え方の見直しと加点法による考え方への意識改革、不得手なところを標準的にする考え方から得手をどう伸ばし育成するか視点をもつことの大切さなど、教育現場に対する多くのご助言を頂いた。



⑥大阪科学技術館

大阪科学技術館では、企業や研究機関20社8団体27ブースで構成されており、便利で不自由なく生活できるのはなぜか、安心して暮らせるのはなぜかなど、多くの疑問を解決するための科学技術を体験型展示物で学ぶことができた。また、AIをはじめとする技術革新、グローバル化、環境問題といった地球規模の課題に関するブースもあり、未来の子どもたちには解決しなければならない問題が山積しているのだと強く感じた。よりよい未来を築くためのSDGsについて今一度生徒とともに考え、様々な課題に向き合い、大きく変化する社会の中で求められることは何なのか、日頃から探求心をもって生活する習慣を身につけることの大切さを再認識できた。



⑦あべのハルカス

地上 300m、日本一の高さを誇る超高層複合ビル「あべのハルカス」から「水の都」大阪を一望することができ、展望台や百貨店、美術館など多彩な店舗が出店している先進的な都市機能を集積した立体都市の施設見学であった。日本のいにしえの言葉「晴るかす」の名称の由来に合致した超高層建築ならではの爽快感や充実した施設により、晴れ晴れとした気分を感じることができた。まさに「おもてなし」の心を体現している施設であり、今回の研修を振りかえり児童生徒ファーストとは何かを今一度考えることができた。

6 研修を終えて

富山経済同友会の皆様や同行された先生方との交流を通して、多くの刺激を受ける3日間となった。何気ない会話の中からその時々で共通して感じたことは、未来の児童生徒たちのために自分たちは今何ができるのか、それぞれの立場で力を尽くしたいとの熱い思いであった。また、実際に足を運び、その土地の文化に触れることで日常では気づくことのできない実体験から、多くのことを学ぶことができた。

今回、このような貴重な機会を与えてくださった富山経済同友会の皆様、富山県教育委員会の皆様をはじめとする全ての方々に深く感謝を申し上げるとともに、今後も教員として学び続ける姿勢を大切にして、目の前にいる生徒たちと真剣に向き合い、一人ひとりに還元できるように自己研鑽に努めたいと決意を新たにする研修であった。

